

## 『僧綱補任』裏書の校訂

湊 敏 郎

『僧綱補任』は『大日本仏教全書・興福寺叢書・一』に収められているが、底本になったのは重文、興福寺所蔵『僧綱補任』全六巻である。ところで『大日本仏教全書』は修理前に調査されたものか、修理によって新しく解説できるようになった箇所がある。また原本は現在、奈良国立博物館に寄託されており、筆者がその学芸員であった折、原本にあたった所、裏書だけではあるが、誤植、誤読はもとより、脱漏が少なからず見出された。そこで筆者の調査した結果を紹介しておきたいと思いい、稿を成した次第である。

筆者はもとより古記録の解説に未熟であり、先学の校訂をほじくり返した部分もあることと思うが、本稿では原本に忠実に示すこととした。また更に誤読を重ねた箇所もあるかと思うが、私の出来る限りでの調査した結果である。本書を利用される方にとって幾分かでもお役に立つことがあればと思いい執筆したもので、種々理解の行き届かぬ点が見出されることと思うが、ご教示いただければ幸甚である。

なお調査の結果を報告するにあたって、二・三、断っておきたい。

① 『大日本仏教全書』では旧字体、例えば「辨」「條」などで印刷されているが、原本では「弁」「条」などと書いてある。しかしこれらは訂正には掲げなかった。

② 註が原本では一行になっているが、活字では割註になり、二行になっている所はそのままにした。

③ 「云々」と縦に印刷されていて、原本では「云々」と横になっているものも示さなかった。

④ 活字で「四十」とあるが、原本で「卅」とあるのは間違いを除いて省略した。

⑤ 原本の行かえについては示さなかった。

以上のことは史料として読んでいく上で、支障にならぬと思ったからである。

また以下に掲示した頁数は『僧綱補任』の頁数であり、行数指示は実際の文字の行数で、空白部分は数えなかった。

〔推古天皇卅二年の裏に〕

◎三四頁、下段、初行。

〔□以。言夫佛法。の前に三行脱漏〕

本紀廿二□<sup>(云々)</sup>推古天皇卅二年<sup>甲申</sup>四月<sup>丙朔</sup>戊。有一僧。執斧毆祖父時。天皇(以上一行)

〔 〕輒犯惡逆。(以上一行)

〔 〕罪於百濟觀勒僧。(以上一行)

◎三五頁、上段、四行目。

× 阿曇連。名爲法頭。○ 阿曇連名。爲法頭。

◎三五頁、上段、五行目。

× 道昭道場道慈道鏡以上皆義淵一室弟子也。

○ 道昭道場道慈道鏡。已上皆義淵一室弟子也。(以上二行)

(前文に続いて二行脱漏)

件義淵龍蓋寺傳記云。大和國高市郡居住。夫津守。婦阿部氏多年(以上一行)

□ 音奇出現之。在柴垣上被□白(以上一行)

◎三五頁、上段、六行目。

「五月十五日」の文字、「紫雲」云々の本文と同じポイント。

◎三五頁、上段、八行目。

或本云。山階寺西院……勅右大臣の二行の次に、一行脱漏

月廿三日舟青□了(以上一行)

◎三五頁、下段、一行目。

× 造山科橋。(4、)○ 造山科橋之。

◎三五頁、下段、三行目。

× 不安所造。○ 不安所造也。

◎三五頁、下段、四行目。

× 三月建藥師寺。○ 三月立藥師寺。

◎三五頁、下段、八行目。

× 「同七年、」、」○ 「同六年、」、」

◎三五頁、下段、九行目。

× 從一位懸因農□○ 從一位懸因濃□

◎三六頁、上段、五行目、七行目、

四ヶ所脱漏(○印脱漏)

□ 文殊自天竺到大唐五臺山即老(以上一行)

□ 爲逐本壞□来日本國(以上一行)

□ 七月八日到來攝津國行基(以上一行)

□ 之入室時聖武天皇勅之。(以下省略)

◎三六頁、上段、七行目

× 任機縁處 ○ 住機縁處

◎三六頁、上段、十行目。

× 四年三月十四日 ○ 同四年三月十四日

◎三六頁、下段、十行目

- × 律師法進等奏。□良辨等聞。
- 律師法進等奏。偁良弁等聞。

◎三六頁、下段、十五行目。

三色師位。并大法師位。准勅授位記式。(五字脱漏)

◎三六頁、下段、十五行〜十六行目。

- × 准奏授位記式。<sup>(式カ)</sup>然則。式□
- 准奏授位記或。<sup>(式カ)</sup>然則。式定。

◎三七頁、上段、六行目。

當今庶名<sup>カ</sup>國<sup>カ</sup>とあるが、名は原本では亦と読める。

◎三七頁、上段、十一行目。

若有誦經<sup>(忘カ)</sup>忌却とあるが、忌は原本では忘と読める。

◎三七頁、下段、三行目。

召道鏡。被修宿曜秘法。依有驗。(一字脱漏)

◎三七頁、下段、六行目。

僧侶名「法淨」と「尊教」の間に「法義」が脱漏。

◎三七頁、下段、九行目。

或本云 生年廿五入唐。住唐卅一年は朱筆。

◎三七頁、下段、十二行目と十三行目の間。食封千戸の記事のあとに、朱筆で一行脱漏。

或本云 善珠傳云。依祈護大般若經。皇太子之病即得除愈。仍勅任僧正正月十六日任僧正四月卒云々。(以上一行)

◎三八頁、上段、八行目。

「同六年、<sup>x</sup>、」は「同五年、<sup>x</sup>、」。

◎三八頁、上段、十二行目。

- × 於本寺習學宗義古宗。<sup>x</sup>居山田寺。
- 於本寺習學宗義。古京。居山田寺。

◎三九頁、下段、十一行目。

- × 靜安者修行シ業比良山天。
- 靜安者修行業。比良山ニ住ン天。

◎四〇頁、上段、三行目。

- × 母夢。見空中建三重塔。<sup>x</sup>
- 母夢。見室中建三重塔。

◎四〇頁、上段、七行目。

僧侶名「眞濬」は「眞濟」。

◎四〇頁、上段、十五行目。

「同十年、<sup>x</sup>」は「同十四年、<sup>o</sup>」  
またこの文章は全文朱筆。

◎四〇頁、下段、三行目。

權律師眞雅のよこに、小さく「或本云」の三字が脱漏。

◎四〇頁、下段、十<sup>一</sup>十一行目。

× 此宛如修於上天三昧耶界。□移於下地云云  
○ <sup>(此字のみ朱筆)</sup>此宛如修於上天三昧耶界。然移於下地云云

◎四〇頁、下段、十二行目。

智證大師夢。の右上に小さく「或本云」の三字が脱漏。

◎四一頁、上段、一行目、二行目。

「同三年、<sup>x</sup>」は「仁壽元年、<sup>o</sup>」  
× 向太宰府 ○ 向大宰府

◎四一頁、上段、八行目。

「他皆倣之。」の下に「云云」の二字脱漏。

◎四一頁、上段、九行目。

智證大師の右上に小さく「或本云」の三字が脱漏。

◎四一頁、上段、十二行目。

× 結胎藏灌頂。 ○ 結胎藏灌頂。

◎四一頁、下段、四行目。

× 右被右大臣宣 ○ 右被右大臣宣傳。

◎四一頁、下段、十行目。

× 貞觀六年二月 ○ 貞觀六年二月<sup>(年カ)</sup>

◎四一頁、下段、十四行目。

汰池邊入唐親王受兩部眞言。「受」一字脱漏

◎四二頁、下段、三行目。

可任僧綱也。而先以己分僧綱。「而」一字脱漏

◎四二頁、下段、七行目。

× 貞觀六年二月十六日<sup>x</sup> ○ 貞觀六年十六日

◎四二頁、下段、十五行目。

× 自東宮之時。朕身相□奉

○ 自東宮之時。朕<sup>カ</sup>身<sup>ヲ</sup>相<sup>□</sup>奉

◎四二頁、下段、十六行目。

× 一演僧正受法弟子云云。<sup>×</sup>大納言

○ 一演僧正受法弟子。以大納言

◎八〇頁、上段、五行目、六行目。

× 依興福寺藥師寺解。又<sup>×</sup>維摩最勝二會。

○ 依興福寺藥師寺解文。維摩最勝二會。

◎八〇頁、下段、三行目。

「後任律師也。」の下に「云云」の二字脱漏

◎八〇頁、下段、十行目。

× 靜觀僧正傳<sup>ニ</sup>。○ 靜觀僧正傳云。

× 殊勅有 ○ 殊有勅

◎八一頁、上段、四行目。

勅授法橋上人位。(「人」字脱漏)

◎八一頁、上段、十行目。

遺<sup>カ</sup>遣<sup>カ</sup>は原本では「遣」となっている。

◎八一頁、下段、一行目。

〔同天慶八年<sup>×</sup>、<sup>×</sup>〕は〔同天慶七年<sup>×</sup>、<sup>×</sup>〕

◎八一頁、下段、三行目。

× 存生時奏之<sup>×</sup>。○ 存生時奏云。

◎八一頁、下段、八行目。

今年天下大旱。〔大〕字脱漏

◎八二頁、下段、四行目。

或云。賀靜申也。可尋之。の文章は朱筆。

◎一一六頁、上段、六行目と七行目の間。

「石清水」の前に「長保二年」の四字が脱漏。

◎一一六頁、上段、八行目と九行目の間。

「石清水」の前に「長保五年」の四字が脱漏。

◎一一六頁、上段、十行目と十一行目の間。

「八幡宮」の前に「寛弘六年」の四字が脱漏。

◎一一六頁、下段、八行目と九行目の間。「法眼定清」云云の前に脱漏あり。

寛仁元年六月十日恵心坊前権少僧都源信入滅七十七  
至延徳三年隔四百七十五者也  
去寛弘三年十二月十六日薨退僧都  
眞興僧都入滅云四百八十八年當之

(以上貼紙墨書)

◎一六頁、下段、十行目。

× 法橋金昭 同日敍金峰山別當。同日敍彌勒寺講師。宇佐御祈使。

○ 法橋金昭 同日敍金峰山別當。元命。同日敍弥勒寺講師。宇佐御祈使。

◎一六頁、下段、十三行目。

金昭に朱合点「\」が脱漏

◎一七頁、上段、二行目と三行目の間。

「大佛師定朝」の前に「治安二年」の四字脱漏。

◎一七頁、上段、四行目。

〔後一條天皇治安四年、\〕は〔後一條天皇万壽四年、\〕

◎一七頁、上段、六行目。

「法印定清十一月日石清水行幸實」は「法印定清十一月日夜石清水行幸實」で、「夜」字が脱漏。

◎一七頁、上段、八行目と九行目の間。

「八幡宮」の前に「長元二年」の四字が脱漏。

◎一七頁、下段、四行目。

「恵心院闕□覺超」の□は「故」と読める。

◎一七頁、下段、五行目。

〔貼紙字形不見〕の所は貼紙なく、「後蒙」と読める。

◎一七頁、下段、七行目。

〔貼紙字形不見〕の所は貼紙なく、「聞而比類聞」と読める。

◎一七頁、下段、十行目と十一行目の間。

「八幡宮」の前に「長曆元年」の四字脱漏。

◎一七頁、下段、十一行目。

× 大法師院救月日叙法 ○ 大法師院救同日叙法

◎一四九頁、下段、十行目。

× 東西堂 × 東西室 ○ 東西室

◎一四九頁、下段、十一行目。

× 皆悉缺失 × 皆悉焼失 ○ 皆悉焼失

◎一五〇頁、上段、八行目と九行目の間。〔同天喜元年、\〕の前。

〔同六年、\〕として

八幡別當法印元命八月廿九日卒の一行脱漏。

◎一五〇頁、下段、三行目。

「大法師兼清」の前に

「康平二年

八幡宮」の二行脱漏。

◎一五〇頁、下段、四行目。

× 戒信<sup>×</sup>月日叙  
法橋 〇 戒信<sup>〇</sup>同日叙  
法橋

◎一五〇頁、下段、五行目と六行目の間。

「八幡宮」の前に「康平四年」の四字脱漏。

◎一五〇頁、下段、七行目

× 法橋戒信<sup>×</sup>月日叙  
法眼 〇 法橋戒信<sup>〇</sup>同日叙  
法眼

◎一五〇頁、下段、九行目

兼清に朱の合点「\」が脱漏。

◎一五一頁、上段、一行目。

良尊の割註の最後に

以二月廿三日被任也。の九字が脱漏。

◎一五一頁、上段、四行目と五行目の間。

「大佛師法橋長勢」の前に「治暦四年」の四字脱漏。

◎一五一頁、上段、六行目、「繪佛師教禪」の割註。

× 三月廿五日叙法  
橋。百體面(マ、)繪實。公家御藥御折祈。<sup>(書カ)</sup>丈六御佛。  
〇 三月廿五日叙法橋。公家御藥御折祈。<sup>(書カ)</sup>丈六御佛。百體面(マ、)繪實。

◎一五一頁、下段、六行目。

× 周防守平師仲子<sup>×</sup> 〇 周防守平棟仲子

◎一五一頁、下段、七行目。

× 宣經〔困卅二〕<sup>×</sup> 〇 宣經〔困卅二〕

◎一五一頁、下段、九行目。

× 増信〔困廿二〕<sup>×</sup> 〇 増信〔困廿三〕

◎一五二頁、上段、九行目。

× 良善 〇 良善〔困六十一〕

◎一五二頁、下段、二行目。

× 定深〔困卅〕<sup>×</sup> 肥後守 〇 定深〔困卅〕。肥後守

◎一八七頁、下段、六行目と七行目の間。

〔同寛治二年、々、〕の次に

豎者喜範(困六十)勝秀(困四十七)澄邊死關。が脱漏。

「八幡」の前の行に「寛治二年」の四字脱漏。

◎一八八頁、上段、五行目。

× 權別當法橋覺正。○ 權別當法橋覺心。

◎一八八頁、下段、十四行目。

× 金峯山。○ 金峯

◎一八九頁、上段、七行目。

× 法橋信清。十月卒。○ 法橋信清。(困十月卒)

◎一九〇頁、上段、四行目。

× 經願。〔困卅五〕。○ 經願。〔困卅五〕

◎一九〇頁、下段、七行目。

× 良智。〔困卅八〕。○ 良智。〔困卅八〕

◎一九一頁、上段、三行目。

× 別法印頼清。○ 別當法印頼清

◎一九一頁、上段、九行目。

× 明俊。〔困同日敘法眼。〕。○ 明俊。〔困同日敘法橋。〕

◎一九二頁、上段、二行目。

禪仁。〔困卅三。彈正尹藤基長入道子。に続けて「蓮」辭退替〕の五字分が脱漏。

◎一九二頁、上段、十行目。「證義」の割註左の行。

× 依當逝去。○ 依母當逝去

◎一九二頁、下段、四行目。

× 二條院。銀香呂。師。時重少將。○ 二條院。銀香呂。師。時少將。  
× 太皇太后宮。香呂。有。家。○ 太皇太后宮。香呂。有。家。少將。

◎一九三頁、下段、二行目。

× 延邇。〔困卅五〕。○ 延邇。〔困卅五〕

◎一九三頁、下段、三行目。

× 實息。母上野守。源家宗女。○ 實息。母前上野守。源家宗女。

◎一九四頁、上段、九行目。

× 〔困卅二〕式部大輔。○ 〔困卅三〕式部大輔

◎一九四頁、上段、末行。



× 師君玄當時關白殿下。 ○ 師君玄在□下當時關白殿下。

◎一九四頁、下段、三・四行目。

已講四人。〔因定通。濟意。覺基。覺俊。〕は朱筆ではなく墨書。

◎一九四頁、下段、五行目。

房官。の下に「云云」の二字脱漏。

◎一九五頁、上段、七行目。

× 雅昭。〔因六十四〕 ○ 雅昭。〔因六十七〕

◎一九五頁、上段、七行目と八行目の間。

「八幡」の前に「保安二年」の四字脱漏。

◎一九五頁、下段、十行目。

「前驅」の割註の最後に次の一行脱漏

尊勝寺灌頂大阿闍梨公禪大僧都。

◎二一九頁、上段、二行目。

「十二月卅日」の記事の前に以下の記事、脱漏。

堅者 宗延。〔因五十九〕

増範。〔因五十八〕

十二月十三日□□拜賀。車御前一人覺。佛師。已講二人覺心口。（以上一行）

威從四人。三井寺上綱二人。（以上一行）威隨之前。（以上一行）有職廿余人。公達十余人。房官十人。綱掌四人。（以上一行）

十二月廿二日最勝寺灌頂大阿闍梨公伊權大僧都。蓮臺灌頂慶實内供。

以同十七日□下阿闍梨宣旨十四人。

◎二一九頁、上段、十二行目。

× 頼良子。〔因六十四〕 ○ 頼良子。〔因六十七〕

◎二一九頁、上段、十四行目。

× 能野 別當長範 ○ 能野別當長範

◎二一九頁、上段、末行。

× 十二月。 ○ 十二月。

◎二一九頁、下段、七行目。

× 大夫階重子。〔因五十九〕 ○ 大夫俊重子。

◎二一九頁、下段、十行目に脱漏。

堅者 隆順。〔因五十八〕

晴謹。〔因四十五法勝寺十学生旁〕

◎二二〇頁、上段、四行目。

× 蒙那智別當官。<sup>x</sup> ○ 蒙那智別當宣。

◎二二〇頁、上段、十一行目。

「八幡」の前に「長承元年」脱漏。

◎二二〇頁、下段、一行目。

× 法莊嚴院御造佛賞。<sup>x</sup> ○ 法莊嚴院御佛賞。

◎二二〇頁、下段、十一行目。

× 蒙牛車宣 ○ 蒙牛車宣旨。

◎二二〇頁、下段、十一行目。

「法印大和尚位」の前に「叙」字脱漏。

◎二二〇頁、下段、十一行目。

× □<sup>x</sup> 一院孔雀經。 ○ 一院孔雀經

◎二二二頁、下段、九行目。

× 同日敘法眼。<sup>x</sup> ○ 同日敘法橋。

◎二二二頁、下段、末行。

× 十二日卒。<sup>x</sup> ○ 十六日卒。

◎二二三頁、上段、二行目。

× 賢忍<sup>x</sup>〔<sup>因</sup>十四日死去。〕 ○ 賢仁<sup>〔<sup>因</sup>寺分十四日死去。兼信辭退。〕</sup>

◎二二三頁、上段、十行目。

「同二年月日死去」は朱筆。

◎二二三頁、上段、四行目。

× 賢者宗覺。<sup>x</sup>〔<sup>因</sup>四十二〕<sup>x</sup> ○ 堅者宗覺。<sup>○</sup>〔<sup>因</sup>四十三〕

◎二二三頁、上段、六行目。

「仁和寺。號長尾宮。」は墨書で「二月十一日崩」の下に続く。

◎二二三頁、下段、一行目。

「八幡」の前に「保延三年」とあり。

◎二二三頁、下段、七行目。

× 別機<sup>x</sup>長範讓。 ○ 別當<sup>○</sup>長範讓。

◎二二三頁、下段、十四行目。

「八幡」の前に「保延四年」とあり。

◎二二三頁、下段、十六行目の前に

二月 日熊野修理別當謹快法橋敘。の一行脱漏。

◎二二四頁、上段、三行目。

信海の前に「皇覺 中堂大僧正忠尋拳。」が脱漏。

◎二二四頁、下段、三行目。

「月九日□戰」は「月九日合戰」と読める。

◎二二五頁、上段、六行目。

× 正月十三日夜。八幡宮燒亡。<sup>x</sup> 即以諸国

○ 正月十三日夜。八幡宮燒失。<sup>o</sup> 即以諸国

◎二二五頁、上段、八行目。

× 鏡御體許見在之。<sup>x</sup> ○ 鏡御體許見在云云。

◎二二五頁、上段、十一行目。

× 一條北邊御堂塔。<sup>x</sup> ○ 一條北邊坂堂塔

◎二二五頁、上段、末行。

× 初日勤任。<sup>x</sup> ○ 初日勤仕。

◎二二六頁、上段、六行目。

× (兼算打上)<sup>x</sup> ○ 兼算打上<sup>oo</sup>

◎二二六頁、上段、十一行目。

× 修理權別當法橋濟清 ○ 修理別當法橋濟清

◎二二六頁、下段、一行目。

× 院春御塔造佛賞 ○ 院春日御塔造佛賞

◎二二六頁、下段、一行目。

法橋康助の一行の次に

院朝、圓信、忠圓の一行脱漏。

◎二二六頁、下段、二行目。

三月十日の前に次の記事脱漏。

穩覺

堅者晴縁〔因法勝寺十学生旁〕

賢信 <sup>寺分勝意辭退覺盛□□</sup>  
〔因政宰相顯實子五十八〕

◎二二六頁、下段、十一行目。

〔因御殿預法橋覺毫〕は朱筆でなく墨書。

◎二二六頁、下段、十三行目。

× 長範 <sup>正月廿一日死去</sup> ○ 長範 <sup>正月廿一日死去</sup> の朱筆が脱。

◎二二六頁、下段、十四行目。

× 修理別當法橋湛海。<sup>x</sup> ○ 修理別當法橋湛快。

◎二七頁、上段、一行目。

×	法眼院覺	○	法眼院覺	○	月日死去	○	○	○	○	○	○
			〔困生年〕			○	○	○	○	○	○

◎二七頁、上段、十四行目。

×  
參著也×  
○  
參著之○

◎二七頁、下段、二行目。

「先□」は「先臯」と読める。

◎二七頁、下段、末行。

和上一品内親王覺法の前に

「和上大小十師等交名」の一行脱漏。

◎二八頁、上段、一行目。

× 說三衣一鉢能 ○ 說三衣一鉢功能 ○

◎二八頁、上段、二行目。

× 興福寺靈賢。 ×  
○ 興福寺壹賢。 ○

原稿受理 一九八三年九月五日